相談援助実習施設と教育機関の協働による教材作成・共用の試み

－広島県社会福祉士会版「社会福祉士相談援助実習 個別支援計画シート」を用いて－

○　トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校　藤原 久禮（会員番号 002591）

河野 喬　（広島文化学園大学・006788）

キーワード3つ：ソーシャルワーク実習，支援計画作成，Project-Based Learning

１．研究目的

社会福祉士が果たすべき役割として「総合的かつ包括的な相談援助」が掲げられ（厚生労働省，2006），活動範囲拡大と実践力の維持向上の両立が更に求められる時代になっている。今後は，「地域共生社会」の実現をめざした共生型サービスの創設等，専門人材の機能強化・最大活用に向けた改革が予定されており（厚生労働省，2017），ますます分野横断的な実践力の育成・強化が要請されよう。このことは，基本的な知識，技術，倫理観の修得・体現に加え，養成段階であったとしても，諸問題の緩和・解決及び要援護者の自立支援に向けたプロセスを見出す試行的，体験的な教育実践（例えば，Project-Based Learning）が不可欠であることを示している。相談援助実習，特にソーシャルワーク実習の段階は，こうした教育実践を行う絶好かつ唯一の機会といえるだろう。

広島県社会福祉士会では，実習指導者及び養成校教員の参画のもと，実習指導者講習会の開催だけでなく，実習教育の質向上のためのフォローアップ研修を開催し，実習施設及び教育機関の課題共有の取り組みを行ってきた。2015 年に立ち上げた実習教育研究会では，「実習指導者個々の経験や考え方によって実習内容が大幅に異なる」，「実習施設と教育機関が育成すべき社会福祉士像を共有しながら教育を行うべき」との問題意識を持った実習指導者及び養成校教員が集い，相談援助実習に焦点を当てて課題整理を行った。2016 年度の実習指導者フォローアップ研修では，「実習指導の実態」をテーマにワークショップを行い，「実習指導が業務上明確ではなく手当等もない」，「各養成校で指導内容及び教材に一貫性がなく実習指導者に負担が掛かる」，「ソーシャルワーク実習に到達しない例がめずらしくない」等の実態を明らかにした（広島県社会福祉士会，2016）。この報告書を受けて，同研究会では「社会福祉士相談援助実習 個別支援計画シート」（以下，共通シート）を作成し，2016 年度に一部実習施設の協力の基，ソーシャルワーク実習の段階で導入した。

本研究は，上記共通シートを実習指導及び実習において導入した結果を質的に分析し，効果と課題を検討するものである。

２．研究の視点および方法

(1)対象者

相談援助実習を受け容れている実習施設の実習指導者

(2)方法

上記実習指導者及び演習実習担当教員で集い，支援シートを使用し実習指導を行った事例について「実習生の反応」,「指導内容」,「共通シートの改善点」について，フォーカス・グループ・インタビューを行った。

３．倫理的配慮

公益社団法人広島県社会福祉士会の会員に対して協力者を募り，協力を申し出た実習指導者に対して，研究目的，匿名性の確保，いつでも協力を取りやめることができる旨を説明し，承諾を得たうえで実施した。なお，本研究は，同研究会の承認を得て行った。

４．研究結果

共通シートを導入したことで,「これまで実習指導者に一任されていた現場での指導が，養成校教員と連携して共に行う教育に発展した」,「教育機関で何を学んできたのか，現場で何を学ばせるべきかが予測できる」,「検討課題が与えやすい」,「社会とのつながりが可視化でき，理解させやすい」といった点が挙げられた。また,「共通シートにより実習報告会時の報告内容が実習中より改善された」という事後学習の質的向上について指摘があった。改善点としては「高齢者福祉の視点が強く，子ども支援や地域福祉の計画立案には対応できていない」等，相談援助実習の幅広さに対応する教材作成の難しさが指摘された。

５．考察

この共通シートを，養成校が事前指導で用い，実習施設が実習指導で使用し，養成校が実習報告会までの事後指導に導入したことによって，ソーシャルワーク実習に到達できない実習生の発生が大幅に低減された。こうした実習施設と教育機関の協働による教材作成・導入により，両者の連携が向上し，指導方法の共有だけでなく，事前指導，実習指導，事後指導の流れに一貫性が出てきたことがこの結果につながった要因と考える。

実習教育における実習施設及び教育機関の連携協働は，地域連携かつ産学連携の両面をもつ意義深いものである。そのため，次世代育成及び支援力向上の観点から，実習を介した学びの場づくりの意義は大きい。教育機関内の教育効果の点検，実習施設における実習環境の改善，育てるべき人材像の共有といった効果が副次的に期待できるからである。

課題としては，実習生による支援シートの評価が分析できていないことである。今後，実習生を対象とした質問紙調査を実施する計画である。

謝辞

本研究にご協力いただいている実習指導者の方に，深く感謝申し上げます。

資料

広島県社会福祉士会 次世代育成委員会 実習教育研究会（2016)『社会福祉士実習指導者フォローアップ研修報告書』